様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２１ 日現在

機関番号：３２６４１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｈ０１３２３

研究課題名（和文）近現代中央ユーラシアにおけるタタール人ディアスポラと社会・文化変容

研究課題名（英文）Tatar diaspora and social and cultural transfomations in modern and contemporary central Eurasia

研究代表者
新免　康（Shinmen, Yasushi）

中央大学・文学部・教授

研究者番号：１０２３５７８１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題では、ロシア帝国・ソ連領と中国（清朝～中華民国～中華人民共和国）新疆の間の越境移動を軸に、中央ユーラシアにおけるタタール人のディアスポラ、すなわち交易活動・宗教的活動や居住地域における政治的・社会的変動にともなう移動・移住と、各地域での多様な活動に焦点を当てることを通して、19世紀後半から20世紀後半の期間における中央ユーラシアの社会・文化変容の様相の重要な側面を明らかにすることができた。タタール人たちは、広域的な移動・移住を通して、境界をまたいだ諸地域の多様な集団を結びつける役割を担うことで、それぞれの移住先の社会・文化に影響を与え、ユーラシア各地域で新たな局面を生み出していった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
第一に、本研究は、国家的枠組を超える広域的な地域間交流と社会・文化変容の連関性という独自の視点から、中央ユーラシアの歴史的展開をとらえ直すことを通して、関連研究に新たな地平を切り拓くことができた。第二に、広域的な越境移動と地域との関係性という新たな観点から、中国―ロシア・ソ連間の関係性の内実に関する理解の深化に資する独自の視座を提供することが可能になった。第三に、文書館における史料の調査・収集、タタールスタンでの聞き取り調査、各地の民族語文献の調査・収集により得られた多様なデータを有効に組合せて利用し、分析することにより、新たな中央ユーラシア近現代史像の提示へとつなげた。

研究成果の概要（英文）：This research focused on the diaspora of the Tatars in Central Eurasia, or the migration and emigration associated with trade and religious activities, and with specific political changes in the regions where they lived, centering on the cross-border movement between the Russian Empire - Soviet Union and China (Qing Dynasty - Republic of China - People's Republic of China). As a result, considering their various activities in each region, we have been able to throw light on the important aspects of the social and cultural transformation of Central Eurasia during the period from the late 19th century to the late 20th century. The Tatars, through their extensive migrations and emigrations, played an important role in linking diverse groups in different regions across borders, thereby influencing the society and culture of each region and creating a new historical dimension in modern Eurasia.

研究分野：中央ユーラシア史

キーワード：中央ユーラシア　タタール人　ディアスポラ　中央アジア　新疆　社会・文化変容　移動・交流　ムスリム社会

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

中央ユーラシアの歴史は、18 世紀以降の清朝とロシア帝国による併呑と政治的枠組の固定化にともなう、当該地域の「周縁化」のプロセスとして語られることが多い。しかし、中央ユーラシアの主要な居住者たるテュルク系ムスリム諸民族は、それぞれの政治的条件に規定されつつ、各地域において主体的な活動を展開し、当該地域の社会・文化の近代化をはじめとするさまざまな動向において顕著な存在感を示してきた。他方、ロシア帝国・ソ連と清朝・中華民国・中華人民共和国という政治的枠組と、それぞれの国家における体制変換をともなう激しい政治的変動の下で、国家の境界を越えた広域的な交易活動と、知的側面を含む諸地域間の交流が活発に行われてきた。そのことは、上記のような各地域の諸民族の活動や社会・文化変容とも密接に連関する。しかし、このような人・モノ・知識の移動と交流に関する視点を基軸として、近現代中央ユーラシアの変動を体系的に描き出す作業は、いまだ不十分な段階にとどまっていると言わざるを得ない。

このような研究を進展させる上でとりわけ注目されるのは、タタール人の移動と活動である。18 世紀よりタタール人はタタールスタンなどロシアのヴォルガ・ウラル地域から中央アジア、さらに 19 世紀後半以降清朝領の新疆へも進出し、各地域にコミュニティを形成しながら、広域的な交易活動と知識人による文化的活動を展開した。また、移動先のムスリム社会との交流の中で、各地域の近代化に果たした役割も指摘されている。他方、我々の予備調査で、その移動の波は上記のような方向性に加えて、20 世紀後半に中国領新疆からソ連領中央アジアへの移住、ソ連解体後にはタタールスタンへの「還流」が見られたことも明らかになりつつある。

タタール人の移動・移住と活動は、ロシア帝国・ソ連と中国の政治的な枠組とその変動という条件と、両国の間の関係性といった文脈に規定されつつ、それぞれの移住先の社会・文化に影響を与え、広域的な空間において継起的に新たな社会・文化的局面を生み出していった。タタール人たちは、移動先の地域におけるムスリム社会との接触・交流を通して、移動元の社会とのつながりも維持しつつ、中央ユーラシア諸地域の多様な集団を結びつける仲介者としての役割を担ったと考えられる。それは、中央ユーラシアの近現代史を展開させる原動力の一端として位置づけられると言っても過言ではない。

人・モノ・知識の移動と交流という視点に立脚して、中央ユーラシア近現代の変動を見た場合、どのような歴史的相貌が浮かび上がってくるのか。この問いに対して、タタール人の移動・移住と活動の様相に対する注目を通して、独自かつ有効な切り口からアプローチすることが、本研究における主要な目的であった。

２．研究の目的

本研究プロジェクトでは、ロシア帝国・ソ連領と、中国（清朝～中華民国～中華人民共和国）

新疆の間の越境移動を中心に、中央ユーラシアにおけるタタール人のディアスラ、すなわち交易活動・宗教的活動や居住地域における政治的・社会的変動にともなう移動・移住と、各地域での多様な活動に焦点を当てる。そのことを通して、19 世紀後半から 20 世紀後半の期間における中央ユーラシアの社会・文化変容の様相を明らかにする。タタール人たちは、各歴史段階における政治的な条件に規定される一方、広域的な移動・移住を通して、ユーラシア諸地域の多様な諸集団を結びつける役割を担ったと考えられる。このような視点に立脚しつつ、広域的な移動・移住の動態の中で、新たな中央ユーラシア近現代史像の提示を試みる。

３． 研究の方法

（1）タタール人ディアスポラの各段階への注目

上記の移動・移住のプロセスの各段階に関して、政治的枠組や国家間関係における具体的なタタール人の移動・移住の歴史的局面を整理すると、①19 世紀におけるタタールスタンなどロシア帝国領ヴォルガ・ウラル地域から中央アジア、とくにカザフスタン地域への移動・拡大、②19 世紀後半～20 世紀初頭におけるロシア帝国領タタールスタンやカザフスタンから清朝領新疆への商業的進出、移住、③ロシア革命・ソヴィエト体制初期におけるカザフスタン等から中華民国新疆への移住、④1950 年代半ば～60 年代初頭の中華人民共和国新疆からカザフスタン等ソ連領への移住、⑤その後（ソ連解体後）のカザフスタン等からタタールスタンへの移住、からなる。

（2）明らかにすべき課題

この各段階に関して、政策の変移との連関を視野に入れつつ、以下の諸点を明らかにする研究作業を実施する。

①タタール人の移動・移住の具体的な様相と、それにともなう交易活動の実態、移住におけるコミュニティ形成のあり方、②各地に形成されたタタール人コミュニティ間の情報と物流のネットワークの様態、③上記ネットワークを前提とする、移住先のムスリム社会における、知的営為を含むタタール人の社会的・文化的活動の展開と地域に対するその作用。④タタール人の移住を機軸として各地域在住ムスリムの様々な集団・個人が接触・交流することによって現出した、各地域におけるムスリム社会のハイブリッドな様態。

これらの考究を統合化することにより、19 世紀後半から 20 世紀半ばに至る時間的スパンを通して、このような移動と交流に基づく中央ユーラシア諸地域の社会・文化の変容の実相を、広域的な動態の中で、系統的かつ総体的に把握する。

４．研究成果

（1）考察内容

上記の研究方法と研究視点に基づき検討を行い、以下の点について考察を加えた。

①先行研究の系統的把握、およびロシアおよび中央アジアの文書館における史料収集と検討により、政治的枠組みとその変化との関連において、19 世紀後半～20 世紀初頭におけるヴォル

ガ・ウラル地域からロシア領中央アジアへの、および中央アジアから中国領新疆へのタタール人の交易活動の実態とそれにともなう移動・移住の基本状況について明らかにした。

②ロシア帝国末期に刊行されたタタール語定期刊行物や、タタールスタン等で発行されたタタール語・ロシア語による、ロシアー中央アジア、新疆の間を移住したタタール人の回想録などをもとに、知識人の移動と知的交流の様相、およびタタール人の移住先地域における経済的・文化的活動、および政治面への関与の具体的状況について、移住先ムスリム社会との関連の文脈を視野に入れつつ明らかにした。

③現代ウイグル語文献やタタール語の回想などの分析により、20 世紀半ばにおける新疆の政治的状況にまつわるタタール人の活動、その後の新疆から中央アジアへのタタール人移住の実態について明らかにした。とくにソ連時代におけるカザフスタンー新疆間関係と関連諸政策を背景として、両地域間の移動も視野に入れつつ、カザフスタンと中華人民共和国におけるタタール人の政治的動向の具体相に光を当てた。

（2）国際学術会議による研究の総括

本研究課題の総括として、国際学術会議“Tatar Diaspora in Modern Eurasia: Connection, Transformation, Revolution”を開催した。本科研メンバーを軸としつつ、6 名の世界的な近現代タタール史研究者を招聘して発表者とした。そこでは、本研究課題の成果を踏まえた上で、対象となる地域を極東地域も含む形へと拡大し、おもに 18 世紀～20 世紀という期間、とくに近代における、タタール人の移動と交流の諸様相と、それにともなうユーラシア諸地域の社会・文化変容の実相を、政治的変動との連関を視野に入れつつ、検討することを目的とした。その際、タタール人の交易活動・宗教的活動・知的活動にともなう広域的な移動・移住の様相がどのようなものであったか、彼らが移動・移住先の各地域でどのような活動を行い、それがそれら地域にどのようなインパクトを与えたか、そしてこのようなプロセスを通してユーラシアの諸地域にどのような新しい歴史的局面が生じてきたか、という点に留意した。プログラムは以下の通りである。

<u>1st session</u>

Allen Frank

“Tatar Narrative Poems (bäyets) of the Russo-Japanese War, 1904-1905”

Ono Ryosuke

“Takbir in Disguise: Türk-Tatar Möhacirs’ Socio-Religious Lives in the Pre-war Tokyo”

Diliara Usmanova

“The Press of Tatar Emigration in the Interwar Period: Centers, Ideas and Communicative Practices (1918–1939)”

<u>2nd session</u>

Shioya Akifumi

“The Role of Astrakhan in the Russian Oriental Trade: A Focus on the Eighteenth Century”

Hamamoto Mami

"Networks of Tatar Merchants Centered around the International Fairs of Nizhnii Novgorod and Irbit in the 19th Century"

3rd session

Ahmet Kanlıdere

"Yusuf Akçura's Years in Russia in the Light of New Documents and Letters (1903–1908)"

Michael Kemper

"Between Imperial "Jadidism" and Global "Salafism": Rida'addin ibn Fakhreddin on Jamaladdin al-Afghani"

Rozaliya Garipova

"Gulandam Abistay Khabibullina: Mobility and Women's Transmission of Knowledge Across Central Eurasia"

4th session

Gulmira Sultangalieva

"Tatarskaya Sloboda" as the Centers of Socio-cultural Life of Uezd Towns of the Steppe General – Governorship (Second Half of the 19th - Early 20th Centuries)"

Shinmen Yasushi

"Tatar Migration and Xinjiang Muslim Society in Modern Central Eurasia: Haydar Sayrani and the Muhiti Family"

Kumakura Jun

"The Formation of the Socialist States and the Tatars: from the Case of the Kazakhstan and Xinjiang"

General Discussion

Discussant: Naganawa Norihiro

本学術会議を通して、国際的にみて現状における最先端の研究状況の中で本研究課題の成果とその学術的意義を位置づけるとともに、今後の関連研究のさらなる展開に向けて、さまざまな国際的な情報・意見交換を行った。本研究課題の成果の国際的な発信とその意義付けを果たしたと考える。なお、本国際学術会議を基礎とする英語論文集の刊行を予定している。

以上より、タタール人の活動に焦点を当てることにより、人・モノ・知識の移動と交流という視点に立脚して新しい中央ユーラシア近現代史像を描くという本研究の主要な目的を、かなりの程度達成したと考える。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計19件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 新免康	４．巻 －
２．論文標題 ウルムチの歴史的変容と「洋行街」」	５．発行年 2020年
３．雑誌名 アフロ・ユーラシアにおける都市と社会	６．最初と最後の頁 543-635
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 新免康	４．巻 －
２．論文標題 中国新疆のイリ地域におけるウイグル族の「歴史歌謡」について	５．発行年 2021年
３．雑誌名 ユーラシアにおける移動・交流と社会・文化変容	６．最初と最後の頁 207-310
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 新免康	４．巻 24
２．論文標題 19～20世紀の南新疆に関わるウイグル族の歴史歌謡について	５．発行年 2021年
３．雑誌名 中央大学政策文化総合研究所年報	６．最初と最後の頁 145-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 新免康	４．巻 －
２．論文標題 19世紀後半～20世紀前半におけるウイグル族社会の呪術師バフシに関する資料	５．発行年 2022年
３．雑誌名 歴史の中の個と共同体	６．最初と最後の頁 237-266
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 新免康	4．巻 47
2．論文標題 中国新疆における「文人」としての「少数民族」政治エリート：セイピディン・エズィズィを事例として	5．発行年 2023年
3．雑誌名 中央大学アジア史研究	6．最初と最後の頁 201-224
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 濱本真実	4．巻 89
2．論文標題 越境者の記録から見る18 世紀末～19 世紀前半のロシア･新疆貿易	5．発行年 2019年
3．雑誌名 西南アジア研究	6．最初と最後の頁 58-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 濱本真実	4．巻 62
2．論文標題 モスク建築からみるロシア・ムスリム史	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ユーラシア研究	6．最初と最後の頁 20-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 濱本真実	4．巻 22
2．論文標題 日本の新疆調査に関するロシア帝国諜報史料	5．発行年 2022年
3．雑誌名 大阪公立大学東洋史論叢	6．最初と最後の頁 127-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 塩谷哲史	4．巻 34
2．論文標題 ニコライ1世期ロシア帝国のアジア外交―外務省アジア局および地方総督の役割を中心に―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Annual Report of The Murata Science Foundation	6．最初と最後の頁 339-345
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 塩谷哲史	4．巻 34
2．論文標題 ヒヴァ・ハン国史研究とフィールドでの史料調査	5．発行年 2021年
3．雑誌名 筑波大学地域研究	6．最初と最後の頁 45-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 塩谷哲史	4．巻 102
2．論文標題 Islam and the Nomadic Political Tradition in the 19th-Century	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Oriente Moderno	6．最初と最後の頁 68－87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 塩谷哲史	4．巻 －
2．論文標題 19 世紀ヒヴァ・ハン国の年代記	5．発行年 2023年
3．雑誌名 近代中央ユーラシアにおける歴史叙述と過去の参照	6．最初と最後の頁 93-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 塩谷哲史	４．巻 －
２．論文標題 ラクダと都市が支えた草原の移動―18～19世紀の中央アジアとロシア―	５．発行年 2023年
３．雑誌名 中央アジア牧畜社会―人・動物・交錯・移動―	６．最初と最後の頁 60－81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 塩谷哲史	４．巻 43
２．論文標題 Shi'ite Captive Release Negotiations in Khiva	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Acta Slavica Iaponica	６．最初と最後の頁 73-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 海野典子	４．巻 －
２．論文標題 経堂教育と新式教育：20世紀初頭の北京ムスリムの教育改革をめぐる議論と実践	５．発行年 2021年
３．雑誌名 宗教と風紀：＜聖なる規範＞から読み解く現代	６．最初と最後の頁 222-242
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 海野典子	４．巻 －
２．論文標題 日本人の見た中華民国期北京のムスリム社会：雑誌『回教』と画集『回回風俗図』を手がかりとして	５．発行年 2022年
３．雑誌名 近代日本と中東・イスラーム圏：ヒト・モノ・情報の交錯からの見る	６．最初と最後の頁 327-364
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 海野典子	4．巻 1027
2．論文標題 清末民初期の北京における食・衛生・宗教：中国ムスリムの「清真」意識とハラール問題への対応	5．発行年 2022年
3．雑誌名 歴史学研究	6．最初と最後の頁 37-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 熊倉潤	4．巻 197
2．論文標題 中ソ対立下の中国少数民族幹部政策：新疆ウイグル自治区の事例から	5．発行年 2019年
3．雑誌名 国際政治	6．最初と最後の頁 58-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11375/kokusaiseiji.197_58	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 熊倉潤	4．巻 61 (3)
2．論文標題 民族エリートと国民国家建設からみた中央アジア地域研究	5．発行年 2020年
3．雑誌名 アジア経済	6．最初と最後の頁 77-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計8件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 濱本真実
2．発表標題 The Russian Empire's Penetration into the Xinjiang Market in the Late 18th and 19th Centuries
3．学会等名 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター夏期国際シンポジウム
4．発表年 2021年

１．発表者名 濱本真実
２．発表標題 19世紀前半のロシア・新疆貿易におけるタタール商人と交易路の変化
３．学会等名 第三回大阪市立大学与広州大学之間的学術交流会
４．発表年 2021年

１．発表者名 濱本真実
２．発表標題 ロシア帝国東部の国際卸売市場におけるモスクの役割
３．学会等名 文部科学省科学研究費・学術変革領域研究（A）ワークショップ
４．発表年 2022年

１．発表者名 濱本真実
２．発表標題 17-19世紀ロシア帝国のムスリム史料としての嘆願書
３．学会等名 大阪公立大学国際学術シンポジウム2021フォローアップ・セミナー（第1回）
４．発表年 2022年

１．発表者名 塩谷哲史
２．発表標題 カザフ草原北辺部における長距離交易と家畜の取引
３．学会等名 日本文化人類学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 塩谷哲史
２．発表標題 1840年代ヒヴァ・ハン国の対露交渉―捕虜解放、通商、国境の諸問題をめぐって―
３．学会等名 東洋史研究会大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 海野典子
２．発表標題 愛国・信仰・面子：清末民初華北ムスリム社会における辮髪をめぐる議論と実践
３．学会等名 辛亥革命110周年シンポジウム
４．発表年 2021年

１．発表者名 海野典子
２．発表標題 “Multicultural Sustainability” in East Asia: Focusing on the Historical Experiences of Muslims in China
３．学会等名 WIAS (Waseda Institute for Advanced Study) 15th Anniversary Symposium
４．発表年 2022年

〔図書〕　計4件

１．著者名 新免 康（編著）	４．発行年 2021年
２．出版社 中央大学出版部	５．総ページ数 322
３．書名 ユーラシアにおける移動・交流と社会・文化変容	

1．著者名 小野亮介・海野典子（編）	4．発行年 2022年
2．出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5．総ページ数 385
3．書名 近代日本と中東・イスラーム圏：ヒト・モノ・情報の交錯から見る	

1．著者名 熊倉潤	4．発行年 2022年
2．出版社 中央公論新社	5．総ページ数 272
3．書名 新疆ウイグル自治区：中国共産党支配の70年	

1．著者名 熊倉潤	4．発行年 2023年
2．出版社 八旗文化	5．総ページ数 270
3．書名 新疆：被中共支配的七十年	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	濱本　真実 (Hamamoto Mami) (00451782)	大阪公立大学・大学院文学研究科・准教授 (24405)	
研究分担者	塩谷　哲史 (Shioya Akifumi) (30570197)	筑波大学・人文社会系・准教授 (12102)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	海野　典子 (Unno Noriko) (30815759)	早稲田大学・高等研究所・講師（任期付） (32689)	
研究分担者	熊倉　潤 (Kumakura Jun) (60826105)	法政大学・法学部・准教授 (32675)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	小野　亮介 (Ono Ryosuke)		
研究協力者	ウスマノヴァ　ディリャーラ (Usmanova Diliara)	カザン連邦大学（ロシア）・国際関係・世界史研究院・教授	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
Tatar Diaspora in Modern Eurasia: Connection, Transformation, Revolution	2023年～2023年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関